さや管ヤリトリ継手の施工方法の注意点

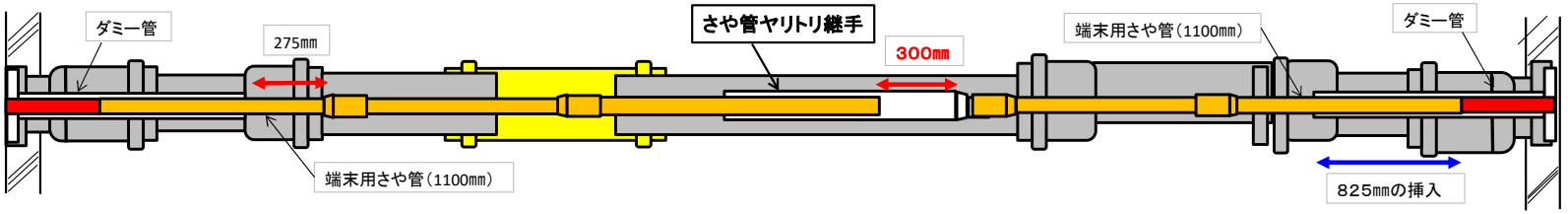
2025年 3月

塩化ビニル管・継手協会

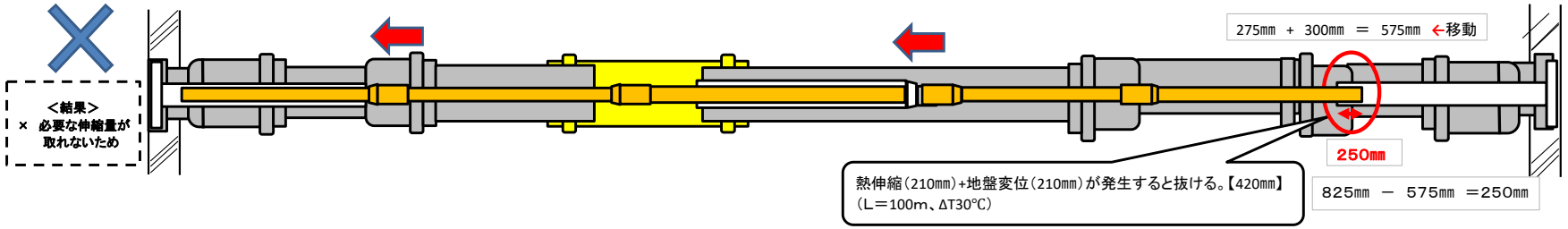
1 ダミー管の設置は、1路線で1箇所とする。
2 ダミー管を使用しない片方は、端末用さや管を必ず奥まで差し込む事とする。
3 ロータス管には、端末用さや管（1100mm）を必ず使用する。【最大移動を想定した場合、ストッパーとなる為】
4 ハンドホール間（1路線）でさや管ヤリトリ継手は1箇所の使用とする。2箇所以上の使用は不可とする。
5 さや管ヤリトリ継手は、さや管の補修目的には使用不可とする。
6 さや管ヤリトリ継手の切断使用は厳禁です。また、調整管の長さ寸法は厳守でお願いします。

【ダミー管の設置は、1路線で1箇所の理由】

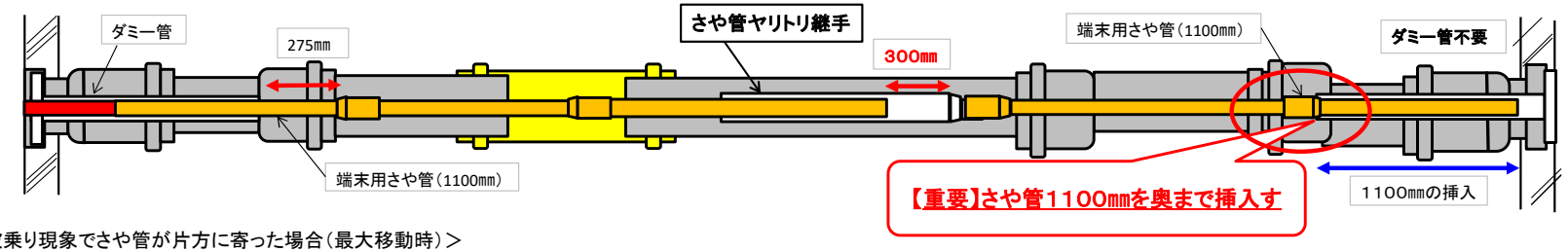
●起点側、終点側ともにダミー管を使用の場合



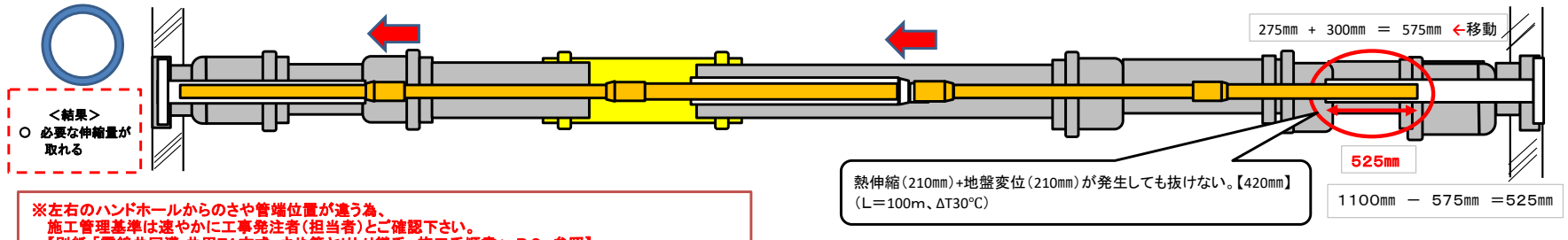
＜波乗り現象でさや管が片方に寄った場合（最大移動時）＞



◎片方のみダミー管を使用



＜波乗り現象でさや管が片方に寄った場合（最大移動時）＞



※左右のハンドホールからのさや管端位置が違う為、
施工管理基準は速やかに工事発注者（担当者）とご確認下さい。
【別紙「電線共同溝 共用FA方式 さや管ヤリトリ継手 施工手順書」 P.9 参照】